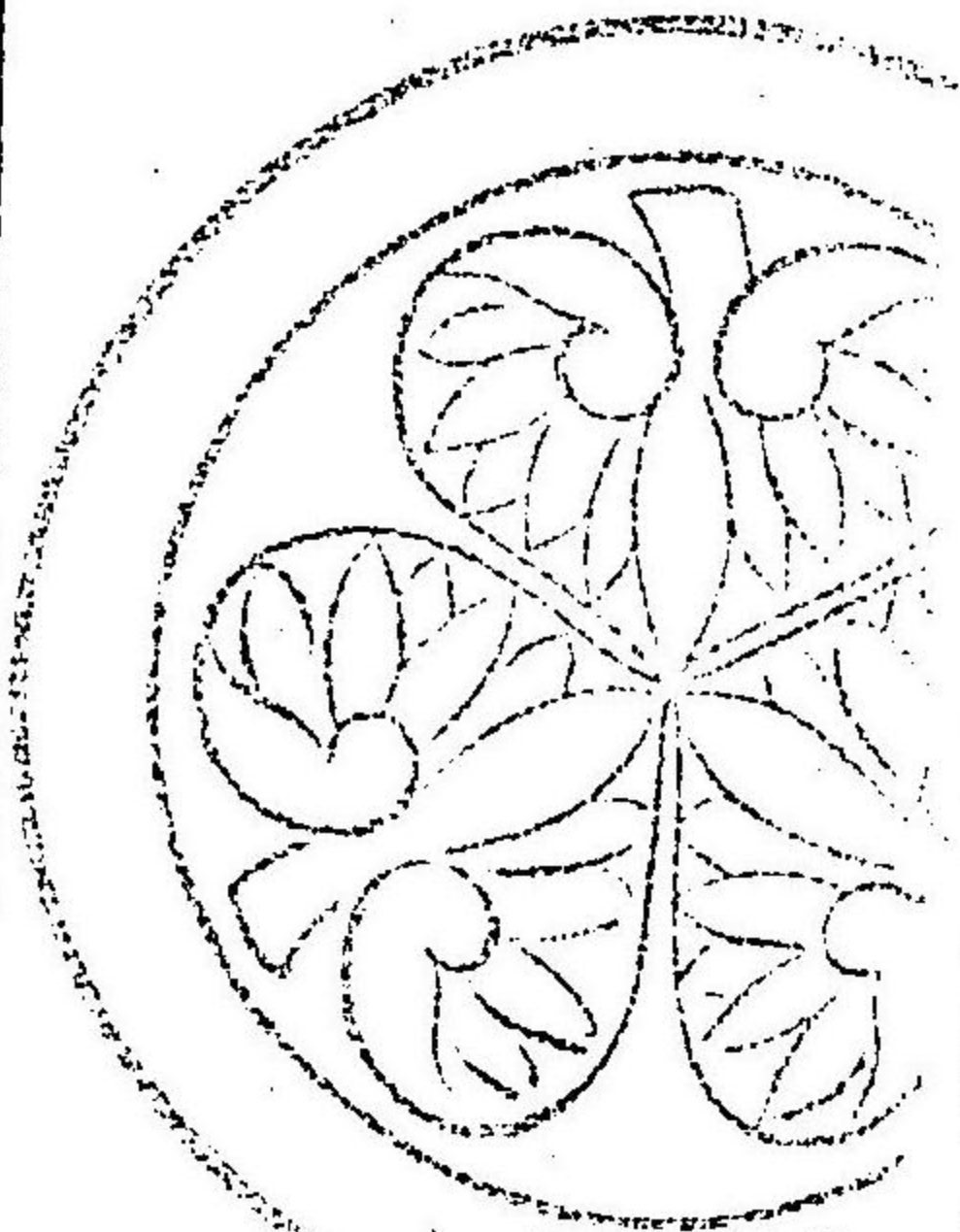
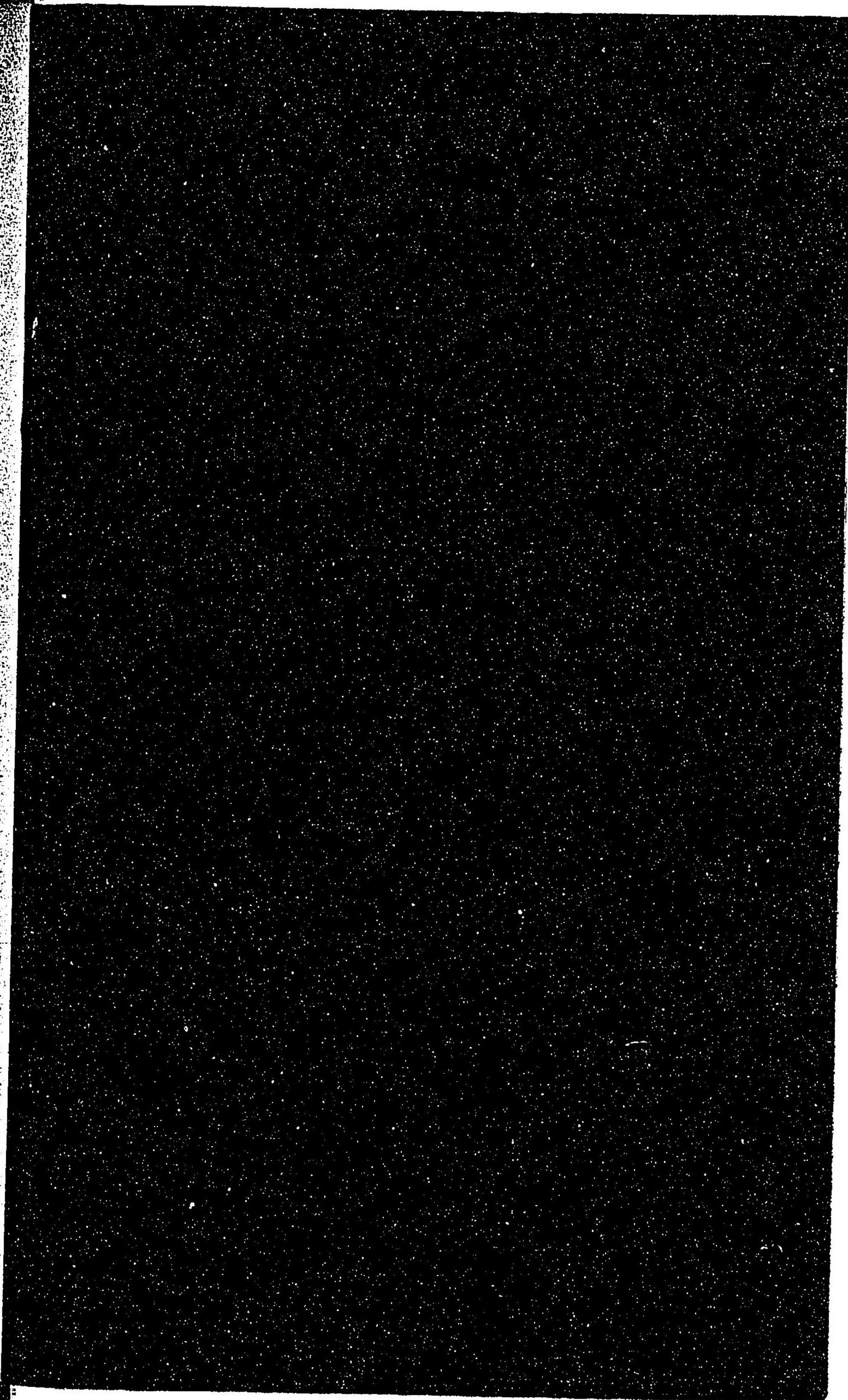
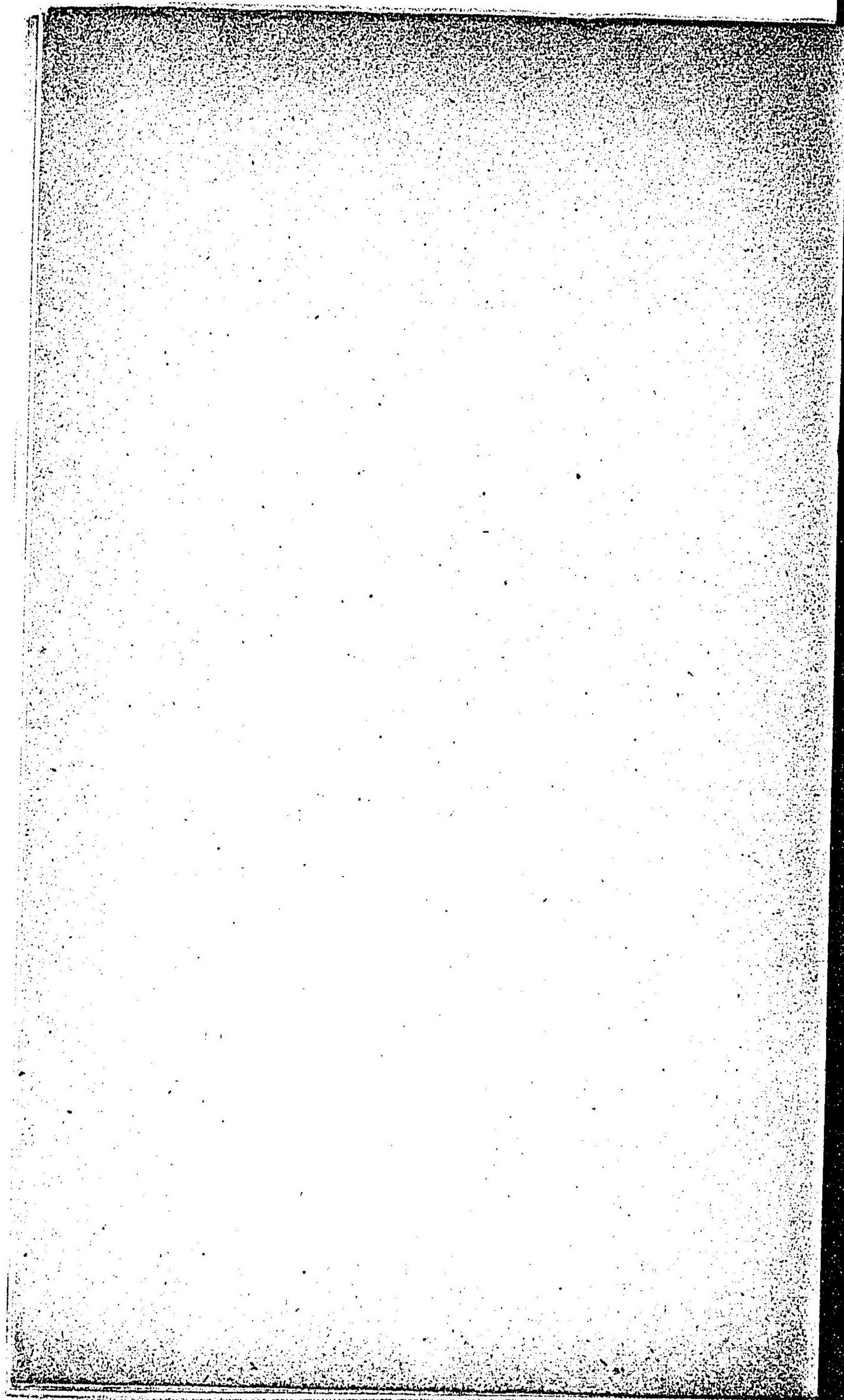


三義隊琵琶歌



207
139





影義隊
琵琶歌

京都帝國大學講師 池邊義象先生作
薩摩琵琶大家 西 幸吉先生譜
筑前琵琶大家 橘 智定先生譜

山崎有信編纂

東京

東京堂書店
至誠堂

明治
44. 7. 26
因次

本書は宮本小一、笹間洗耳及本多晋三氏の多大なる同情により、茲に初めて上梓するを得るに至れり。されば彰義隊に關係を有する諸氏は、右三氏の厚意を諒せられむことを望む。茲に謹て本書を三氏の左右に呈す

編者しるす

自序

幕末の花と賞讃せられし、上野彰義隊の事蹟は、世に傳ふるに足るべき良書なし、予深く其事蹟の堙滅せむことを憾み、數年前一書を著はし、名けて彰義隊戦史と云ふ、曩に天覽の榮を辱うし、又近世史の一部として、上野其他の圖書館へ備へ付けられ、世人の矚目を得るに至れるは、編者の深く榮とする所なり、されど史乘は事實を顯彰するに過ぎず、世人の感懷を深からしむるは、これを歌舞に寓するにあり、願ふに彰義隊の事蹟は、大和民族特有の精華にして、其史實は吾武士道を鼓吹するに足るべきを以て、之を琵琶歌及完全なる脚本に製作して、永く後世に傳へむと欲し、脚本に就ては坪内文學博士を煩はし、琵琶歌に就ては

池邊氏に請ひしに、孰れも快諾せられ池邊氏よりは既に之が送付を受けたり、依て編纂して茲に之を世に公にす、是れ汎く世に行はれむことを欲すればなり、隨て、これを他の歌集其他に轉載せらるゝは隨意にして、作者及編者の承諾を経るを要せず、特に表白し、以て序と爲す

明治四十四年五月綠深き東叡山下の僑居に於て

編者 山崎 有信記す

例言

一予彰義隊に對する世人の感懷を深からしめむが爲め、京都帝國大學講師池邊義象氏に依頼して、彰義隊といふ琵琶歌の製作を請ひ、其新作成るや、薩摩琵琶の名手安部龍雲氏を煩はし、明治四十四年五月十四日箕輪圓通寺并同十五日上野山王臺彰義隊墓前に於て其曲を彈奏せしに、聽くもの皆頭を垂れ、涕泣嗚咽、中には座に堪へざる人あるに至る、是れ安部氏の曲、其妙なるに依ると雖、抑亦池邊氏の作其肯綮を得たるによらずむばあらず、茲に深く兩氏の厚情を感謝す

一彰義隊の遺老土井堯春氏のごときは、最も、この琵琶歌に感動せられし一人にして、特に世に公にせむことを慫慂せられたり、之れ予が意を決して本歌を上梓せし所以なり、辱知宮本小一、笹間洗耳、本多晋の三氏は各自多大の同情を以て本書の印刷を幫助せらる、茲に謹で三氏の誠意を深謝す
一作譜者西幸吉氏は薩摩琵琶を世に流布せしめし開祖にして、明治十二年初て東上し、専ら薩摩琵琶の普及に努力せられたり、由來薩摩琵琶は薩摩に於てのみ行はれたる技にして、而かも其曲たるや、何れも忠勇義烈を諳ひ

慷慨悲壯を語るものにして、世の風教上多大なる利益あり、氏茲に見るあり、之を世に普及して武士道の鼓吹に資せんと欲し、大久保利和、前田正名、九鬼隆一、松方巖、高崎正風等諸氏の援助を受け、斯道の發展普及を圖り、以て今日の隆盛を見るに至れり、之れ蓋し率先者たる氏が熱心なる鼓吹の資たらずむばあらず、氏は明治十三年グランド將軍及明治三十九年コンノート殿下の御前に於て彈奏し、其後明治四十三年前田侯爵邸へ兩陛下及皇太子殿下行幸啓の際にも御前彈奏の榮を得られたり、されば現今薩摩琵琶の名手は指を屈するに暇あらずと雖、氏の右に出づるもの極めて稀なりと云ふ、氏は現今麻布區山元町四十六番地に寓居せらる。又橘智定師は旭翁と號し、筑前琵琶の開祖にして、其祖先玄清沙門は桓武帝延暦七年比叡山伽藍建立に際し、時の帝の勅を奉じて、琵琶を彈せられし人にして、智定師は實に其末裔たり。琵琶は固と之れ武人の歌、勇壯の調、悲哀の曲、眞に迫るの慨ありしも、世運の推移と共に、漸次俗化して、卑猥巴下の調となりければ、師痛く斯道の敗類を愁ひ、夙夜苦心を重ねて、遂に其調節を更め、別に一派を起すに到れり、現時況く世に行はるゝ筑前琵琶

琵琶は實に師が苦心の資たり、師は明治三十年始て東上し、翌三十一年以後屢々皇后陛下及皇太子殿下の御前に於て彈奏の榮を得、其都度優渥なる御詔を拜せられたり、現今斯流の名家少からずと雖、其門下生ならざるもの稀なりと云ふ、師は現今麴町區一番町卅二番地に寓居せらる。茲に一言を記して兩氏の同情を感謝す

一本書琵琶歌中の漢詩は向山黃村翁の作に係るものなり

編者しるす

薩摩琵琶の曲譜

▲ 上 聲

◆ 中 聲

◡ 下 聲

◎ 中と下の内短の弾

◎ 謠切長曲下中を示すの弾

、 同聲なるを示す

〰 吟變り

∨ 亂れ又は崩れ

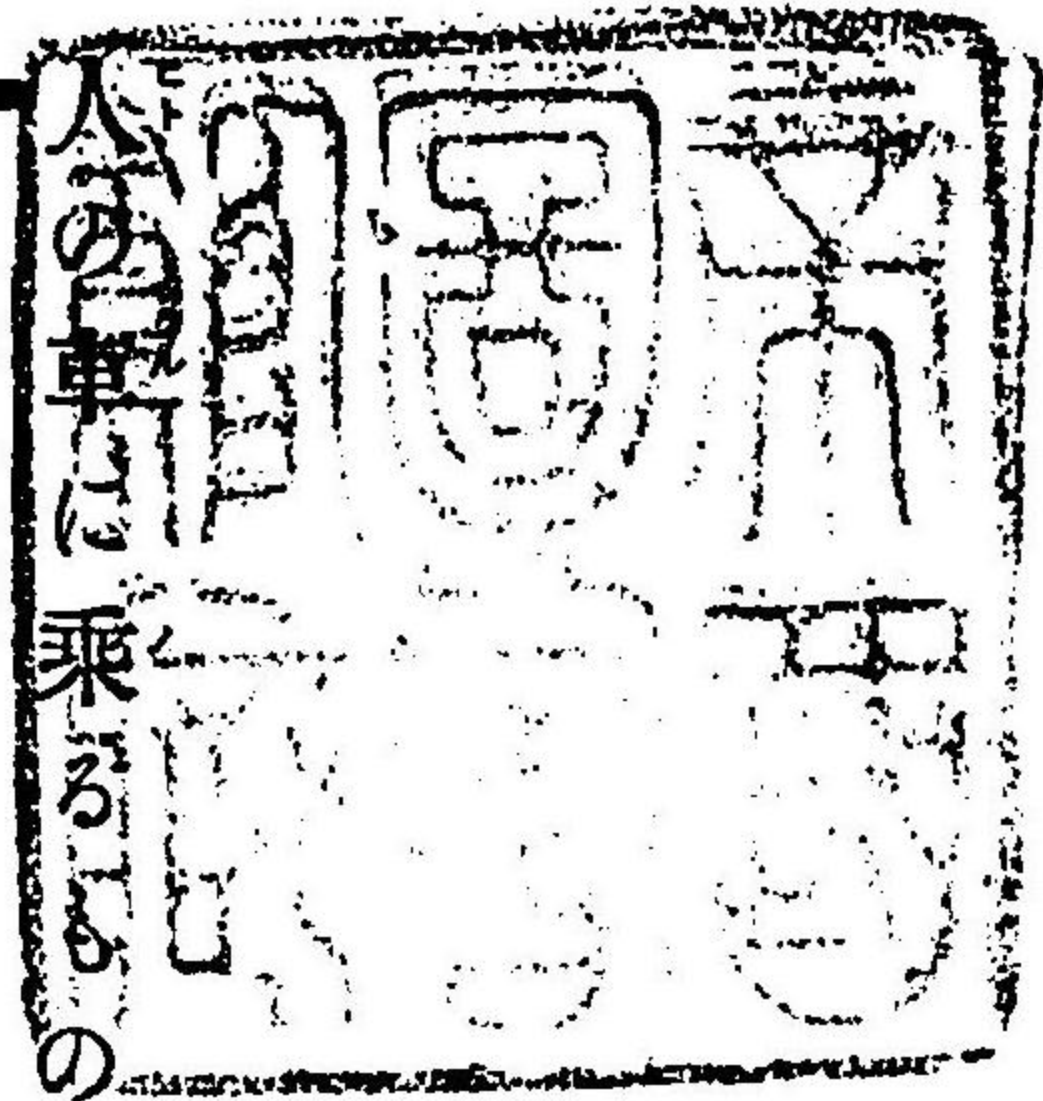
∨ 絃を打ならして聲の間を助次す

∨ 引聲を示す

彰義隊 (薩摩琵琶)

池邊義象先生作

西 幸吉先生譜



人の車に乗るものは、人の憂を載せ、君辱めらるゝ時は、
 臣死すとかや。爰に慶應四年初夏の頃、徳川三百年の覇業
 滅び、前の將軍慶喜公は、責を一身に負ひ、上野東叡山に
 屏居して、恭順罪を待たれしが、聽て江戸城の明渡となり、
 公は其罪を滅せられて、水戸へと幽居せられたまふ、昔忍

ぶの岡の邊に、あつまる旗下數千の士、王の師に向はむの、
不遜の心にあらねども、三百年來主家の恩、葵のかけにか
くれつゝ、忠勇無雙の名を得たる、三河の武士の末として
一矢もひかでをめぐと、この城下をば渡すべき、刀に手
をだにかけずして、此所をば去らるべき、況や思へばこの
岡は、忝くもあつまてる、神の社のあるところ、手をふと
ころに見るべきやと、いはず語らず村肝の、心あひたるま
すらをの、彰義隊と名づけつゝ、勇むさまこそを、しけれ、
天野八郎以下、勇士の面々、東照宮祠を中心、四方に備
を打立てたり、勝敗は必しも、衆寡に依て、定らずとはい

へ、敵は王師の名の下に、はやりにはやれる無数の勢、我
は、屋に上野山、方里に足らぬ小天地、志こそひとしけれ、
いはゞ孤軍の一小勢、輪王寺の宮こそおはせ、朝敵の名を
さへ負ひたれば、勝算なきは覺悟の前、飛びくる矢玉に樓
閣焼け、とどろく音に柱石くだけ、電光石火死傷無數、血
は忍ばずの池を染め、骨は山上の樹根に堆し、御いたはし
や宮殿下には、雷雨をぐらきこかけをば、行方も知れず落
ちたまふ、残る勇士の面々は、これまでなりと劍に伏し、
筒おしあて、死するもあり、敵陣ふかく斬り入つて、戦死
を遂るものもあり、

戊辰五月此山中

志士喪元廿一死

應知百計千方盡

厲鬼于今猶夜哭

劫火燒天草木紅

親臣酬主表孤忠

生受三軍四面攻

啾々萬壑動悲風

實にや星霜五十年、香火つねにたえせざる、
 所、世の人の、賊とよび狂と呼ばよべ、孤忠一片たゞ主
 家の恩に酬いしまごころの、清きみさをは春ことの、櫻の
 花に秋ことの、もみちの色に萬世の、末まで遠く仰がれむ、
 末まで遠く仰がれむ

彰義隊 (筑前琵琶)

池邊義象先生作

橘智定先生譜

三人の車に乗るものは一人の憂を載せし
 三君辱めらるゝ時は三臣死すとかや三番
 六茲に慶應四年初夏の頃水 五徳川三百年の覇業滅び金
 四前の將軍慶喜公は 四責を一身に負ひ
 三上野東叡山に屏居して金々 四恭順罪を待たれしが
 一聽て江戸城の明渡となり四番 四公は其罪を滅せられられて

水戸へと幽居せられ給ふ六番 七昔・忍ぶの・岡のべに――
集る旗下數千の士――王の師に向はむの
不遜の心にあらねども 二三百三年來主家の恩
葵のかげにかくれつゝ三號 七忠勇無雙の六名を得たる
五三河武士の末としてキ 三一矢もひかでをめぐと
四此城下をば渡すべき七番 六刀に手をだにかけずして
五この所をば去らるべき四番 四況や思へばこの岡は
忝くもあづまてる 三神のやしろのある所
手を懐に見るべきやと水地 上いはず語らず村肝の
中心あひたるものゝふの 下彰義隊と名けつゝ――
一勇むさまこそをしけれウツラ 四天野八郎以下勇士の面々
東照宮祠を中心――四方に備を打立てたり十八丁

七勝敗は六必しも衆寡に依て――定らずとはいへ七丁
四敵は王師の名の下に――はやりにはやれる無數の勢五丁
我は三屋に上野山 五方里に四足らぬ小天地――
一志こそ等しけれ十二丁 七いはゞ孤軍の一小勢
六輪王寺の宮こそおはせ二番 朝敵の名をさへ負ひたれば――
一勝算なきは覺悟の前七丁下 飛びくる矢玉に樓閣焼け
とゞろく音に柱石くだけ――電光石火死傷無數五丁
七血は忍ばずの池を染め地 雲ぶし骨は山上の樹根に堆し地水
五御いたはしや宮殿下には 四雷雨をぐらきこかけをば
行方も知れず落ち給ふキギス 残る勇士の面々は――
三これまでなりと劍に伏し九番 七筒おしあてゝ死するもあり
五敵陣深く斬り入つて 三戦死を遂るものもあり三號

戊辰五月此山中
 劫火燒天草木紅
 志士喪元廿一死
 親臣酬主表孤忠
 應知百計千方盡
 生受三軍四面攻
 厲鬼于今猶夜哭
 啾々萬壑動悲風
 七實にや・星霜五十年
 六香火常に絶えせざる土
 彰義隊士の墓所
 三世の人の賊とよび狂と呼ばるる土
 三孤忠一片たゞ主家の恩に
 酬いしまごころの水地
 上清きみさをは春ことの
 中櫻の花に秋ことの
 下もみちの色に萬世の
 五末まで遠く仰がれむ
 三末まで遠く仰がれむ

明治四十四年七月廿三日印刷
 明治四十四年七月廿六日發行



編纂者 發行
 印刷者
 印刷所
 販賣所
 同

山崎有信
東京府北豐島郡高田村大字雜司ヶ谷一四番地
 荻原勝次郎
東京市小石川區久堅町一〇八番地
 博文館印刷所
東京市小石川區久堅町一〇八番地
 東京堂書店
東京市神田區表神保町三番地
振替貯金口座東京二七〇番
 至誠堂
東京市日本橋區本石町三ノ一四
振替貯金口座一七四四番

定價金五錢
 郵税金貳錢

〔彰義隊琵琶歌集付〕

彰義隊の蓄音機音譜

彰義隊の琵琶歌成るを告ぐ、仍て斯道の大家安部龍雲先生に請ふて之を蓄音機に收め、永く其妙曲美音を圓盤に止むることとせり、是れ實に本歌を世に流布せしめむが爲めに外ならず、されば江湖諸彦は之に依りて、居ながら先生の妙曲美音を聴くを得べく、彰義隊關係者は之に依りて隊士がありし昔の面影を偲ぶよすがともならむ、編者の庶幾亦爰にあり、

編者 山崎有信しるす

左に該器の販賣所を掲げ敢て江湖に紹介す(目下製作中)

彰義隊

(薩摩琵琶歌)

安部龍雲先生の音譜

全部三面

壹面に付 定價壹圓五拾錢

池邊義家先生作

附り 彰義隊琵琶歌 一冊 定價五錢

東京市京橋區銀座一丁目

販賣元

三光堂

(電話京橋九七八番、九七九番)
振替貯金口座東京六四二五番

支店

(東京淺草)……………(大阪順慶町)
(福岡下西町)……………(小樽色内町)



211-55

074658-000-0

特67-987

彰義隊琵琶歌

池辺 義象/作

M44

CEJ-0171

